

韓国における高齢者療養施設のサービスの質の向上に関する一考察

一療養保護士の現場教育を中心に一

○ 東京福祉専門学校 氏名 高橋 明美 (07962)

キーワード：韓国高齢者療養施設・サービスの質・療養保護士

1. 研究目的

韓国では2008年7月から「老人長期療養保険制度」(以下介護保険とする)が導入され、日本でも韓国介護保険については、林ら(2010)を始めとしてその導入および展開過程の分析や制度面での課題の指摘、介護保険における介護の担い手である療養保護士についての論文等が多く発表されている。しかし、これらは文献研究や量的調査、インタビュー調査を通じて分析が行われており、現場実践を通して韓国の高齢者療養施設(以下療養施設とする)におけるサービスの実態を報告し実践上の課題を考察したものは見当たらない。

本研究においては、現場実践から、特に療養保護士の現場教育に焦点を当てて、療養施設におけるサービスの質を向上させるための方策を検討することとする。

2. 研究の視点および方法

本研究は、療養施設のサービスの質は療養保護士を中心としたサービス提供者の実践に左右されるとの視点に立ち、療養保護士を取り巻く環境を整理した後に、筆者の療養保護士の現場教育実践をもとに考察を行う。

3. 倫理的配慮

本研究は、日本社会福祉学会研究倫理規定指針に準じて行う。本研究においては事例として韓国のA施設を取り上げるが、公表についてはA施設の承諾を口頭で得ている。

4. 研究結果

(1) 療養保護士を取り巻く環境

療養保護士は国家資格としての位置づけにあり、介護保険下において介護職は全員療養保護士の資格を求められる。療養保護士の教育は民間養成事業者が担っており、受講者は240時間の研修後、試験に合格することで資格を得る。だがこの養成内容については専門性が不足しているとの指摘も多く、制度施行時から療養保護士の水準向上は課題として挙げられていた。さらに、2010年11月現在962,524人の療養保護士が登録されているが、実際に就業しているのは280,746人であり(韓国保健福祉部:2011)、韓国の介護の担い手である療養保護士は、質と量の双方に課題を抱えているという状況にある。

(2) 韓国療養施設における現場教育実践

このような状況下で、筆者は韓国ソウル特別市内のA施設において、第1回2011年3月(1日間)、第2回2011年7月～8月(16日間)、第3回2011年10月～12月(62日間)と3回訪問し、現場教育を行ってきた。当初はケアプラン立案について指導してほしいとの要望であったが、ケアプラン立案以前のサービスの質の問題に直面し、療養保護士の現場教育を行うこととなったのである。

第1回目では、改善点の把握と指摘を行った。直接援助技術の不足、効率的な記録ができていない、入所者の離床時間が短いなどの課題が見られた。これらについては施設内で検討委員会が設けられた。

第2回目では、講義と実技で技術的な指導を中心に教育を行った。前回の指摘に基づいて施設で記録票を作成しており、検討委員会の成果が見られた。

第3回目では、OJT形式で入所者の生活リズムの確立と職員間の情報共有、ケアプランの立案を中心に教育を行った。

これらの3回の教育の結果、直接援助技術については未だ不十分ではあるものの、入所者の離床時間の拡大、24時間記録の実施、記録内容の向上など成果が見られるようになった。また、ミニカンファレンスの継続実施、横断的、総合的な記録票の作成と試行など、職員間、職種間での連携についても成果が見られた。

5. 考察

現在の療養保護士には、知識と技術、経験が不足していることは繰り返して指摘されている。一方、筆者の実践からは、現場で療養保護士に教育を行うとそれは実践に反映され、サービスの質の向上につながる事が明らかとなった。療養保護士の専門性を向上させる為には、住居ら(2011:100-106)が指摘するように、療養保護士の養成カリキュラムを長時間に変更し、知識と技術をさらに習得させることも考えられるが、既に多くの療養保護士が現場に出ていること、マンパワーが不足していることから考えるとすぐに実行することは難しい。また、朴(2011:167-185)の提言する政府による講義形式の補習教育だけでは十分な効果が上がらないことが筆者の実践から推測される。

よって、サービスの質の向上のためには、療養保護士の現場教育を充実させることが求められる。教育においては演習などを取り入れた実践的なカリキュラムが必要である。さらに現場での実践経験を蓄積して、それをOJT教育として確立できるような体系作りも求められる。現場での実践が、療養保護士の専門性の向上に結び付くようなシステムの構築が必要とされているのである。

林春植・宣賢奎・住居広士編著(2010)『韓国介護保険制度の創設と展開:介護保障の国際的視点』ミネルヴァ書房。
韓国保健福祉部ホームページ <http://shell.windows.com/fileassoc/0411/xml/redirect.asp?EXT=hwp> 2012.3.4閲覧
朴 仁淑(2011)「韓国における在宅介護サービスの現状と療養保護士養成の課題」『立命館産業社会論集』47(2)。
住居広士・宣賢奎・林春植(2011)「韓国介護保険制度の創設と課題 介護サービスと療養保護士の専門性と介護人材育成」『老年社会科学』33(1) 日本老年社会学会。